

アジア国際社会福祉研究所 kara

No.27 2020.1.24

編集・発行責任者 秋元 樹

第4回国際学術フォーラム開催、 研究所のネットワークはさらに広がっています

「仏教ソーシャルワーク」の旅はさらに続きます



2019年12月、研究所は国際専門家会議「ソーシャルワークと宗教(スピリチュアリティ)」(12月7日)と国際学術フォーラム「仏教ソーシャルワークの旅 アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性を探る」(12月20-21日)を開催しました。

4回目となる国際学術フォーラムは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一環として実施されている研究プロジェクトのフィナーレを飾るものです。日本ソーシャルワーク教育学校連盟のご協力により、本フォーラムは「ウェビナー」として世界中からの参加を可能にしました。また仏教ソーシャルワーク研究に対し多大な貢献をした本研究所を顕彰記念し、スリランカ政府公式発行記念切手贈呈式が執り行われました。

フォーラムにはベトナム、タイ、スリランカ、モンゴルの研究者や実践者たち、カナダ、アメリカから研究者たちを招待、仏教ソーシャルワーク研究のこれまでの成果を共有しました。

会場に集まった延べ106人の日本人聴衆(研究者、教育者、学生)には、インディジナス・ソーシャルワークとしての仏教ソーシャルワークの研究、世界で進められているソーシャルワークのインディジナイゼーション(土着化)に対する研究所の「反抗」は

とても新鮮に映ったようです。回収されたアンケートには、参加者による研究所や仏教ソーシャルワークへの様々な思いがびっしりと書かれていました。本プロジェクトにより設立されたネットワークですが、国際研究交流における研究所へのイニシアチブへの更なる大きな期待が寄せられています。

タマサート大学ソーシャル・アドミニストレーション学部(タイ)と国際交流覚書(MOU)を締結しました



淑徳大学アジア国際社会福祉研究所とタマサート大学ソーシャル・アドミニストレーション学部は両組織間のより緊密な学術的な連携を進め、双方に益する関心分野への協力に合意しました。

この合意により、両組織間および研究スタッフ間の交換機会の創出、学術研究スタッフによる教授・研修・調査等、両組織の関係がより一層前進することが期待されています。総長、学部長からは研究所を超えて、学部・大学院との学生及び教職員の交流プログラム策定への関心も強く示されました。

この覚書は、2016年に設立された淑徳大学アジア国際社会福祉研究所とタマサート大学両組織間の研究スタッフの交流が結実したものです。ビジティング・リサーチャー論博プログラムで来日し、2019年度本学より学位授与され、タマサート大学に戻られたワンワディ・ポンポクシン先生のご尽力も大きく、2020年1月14日タマサート大学内で執り行われた調印式にはタマサート大学総長も臨まれました。両大学のソーシャルワーク教育国際交流推進への大いなる一歩となる記念すべき日となりました。

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。